

南薩地域振興局では、地域の概ね10年後の「将来の姿」やそうなるための「取組」を示す南薩地域将来ビジョンを平成22年3月に作りました。今回は、このビジョンの「挑戦5 地域と人をつなぐ交通・情報ネットワークづくり」「挑戦6 心ふれあう安心・安全な社会づくり」の分野で活躍されている住民・団体の皆さんの取組を中心に紹介します。

## 人をつなげる

### 南薩縦貫道(知覧道路及び霜出道路)の概要



「川辺道路(6.5km)が平成24年8月8日、全線開通!!」

#### 【南薩縦貫道の整備による支援】

- 1 通勤、通学や医療サービスの向上を支援します。**
  - 鹿児島市への時間短縮を図り、南薩地域への定住化を促すとともに、医療サービスの向上による地域住民の安心な暮らしを支援します。
- 2 農水産物の安定的な輸送を支援します。**
  - 自然災害などによる交通途絶のない輸送ルートを確認し、農水産物の消費地への安定的な供給を支援します。
- 3 観光による地域活性化を支援します。**
  - 県内外から南薩地域への入り込みを容易にし、観光周遊ルートの形成を図るとともに、観光を軸とした地域活性化を支援します。

### ●道路整備事業(坊ノ津道路工区)

平成5年度から南さつま市坊ノ津泊間の8.3kmを整備中

- ・鹿児島市や南薩縦貫道へのアクセス機能の確保や地域活性化などを支援するため、幹線道路の整備を促進します。
- ・観光施設を連絡する観光周遊ルートとしての道路整備を推進します。
- ・指宿、南さつま両地区を結ぶ道路について、円滑な交通が確保できるよう整備を促進します。

(用地を提供していただいた九玉神社宮司：長井優卓さん)

かつて貿易港として栄えた坊津は、貿易・宗教・文化などの歴史が数多く残されている大変重要な町です。

国道が整備された事は、地元住民や観光でおいでくださる方にとって大変便利になります。整備には、御心配される方も多くいらっしゃいましたが、本当に地元の御協力をいただき、やはり整備されて良かったと思っています。

道路ができたことで、学校の統廃合に伴う子ども達の通学用バスも安全に走行でき、また地域内外の行き来も大変便利になりました。

8.3kmの整備完了まで残すところわずかとなりましたが、今後、多くの観光客においでいただきまして、歴史・文化・自然を一度是非みていただきたいと思っています。



改良前



改良後

九玉神社宮司：長井優卓さん

## 人をまもる

### ●交通事故から人を守る

カラー舗装で明るい歩道へ(枕崎市立神通り会 会長 酒匂昭彦さん)



立神通り会会長 酒匂昭彦さん

「立神通り」は枕崎市街地から坊津方面に向かう国道226号線の道路です。その界隈の店が立神通り会です。平成11年に新しくなった花渡橋の完成を祝う形で結成されました。一時期は新興住宅地として次々と新しい家が建ち、店も活況を呈していましたが、年々寂れてきています。

一方、大型のスーパーが建ち、坊津方面からのお客さんも多く、近頃、新たに日本一の売り上げを誇る電気店も開店致しました。

そんな中、「駐車場の確保がままならない個人商店にとって少しでも店をアピールし、店の前を歩いてもらいたい。」との思いで歩道のカラー化をお願いしていたところ、今回一部分ではありますが、実現していただき大喜びです。アスファルトと比べると暖かみがあり視覚障害者誘導ブロックも設置され、道路沿いの焼酎見学工場のイメージアップにもつながったと思います。

段差解消で歩きやすい歩道へ(霜出小学校校長 土橋國浩さん)



霜出小学校校長 土橋國浩さん

ここ南九州市知覧町霜出地区は、鹿児島・枕崎・加世田・指宿方面への交通の要所となっており、大変交通量が多い場所で、付近は、JA・酒屋・日用品店・床屋などあり、校区のご老人たちがたくさん歩いて利用されます。

また、小学生や自転車通学の中学生、高校生も学校までの通学路として利用していますが、かねてから、「ここら辺は、危ないよね。」と住民から意見が出ていたのも耳にしていました。実際、私が霜出交差点で朝の登校指導をしていた時、中学生が「段差で転んだ。」と痛そうな顔で寄ってきたことから、霜出小へ連れて行き、保健室で応急処置をしたこともありました。そんな中、この歩道を3年間かけてバリアフリーにさせていただき、地域の方々や学校も大変喜んでいました。

これからも歩道整備を拡大し、安心・安全な南薩地区にさせていただければ有り難いです。

### ●土砂災害から地域と人を守る

崖崩れから人を守る(菖蒲谷地区にお住まいの、岩崎佐幸さん・鮫島謙一郎さん)



菖蒲谷地区急傾斜



岩崎佐幸さん 鮫島謙一郎さん

南さつま市坊津町坊津地区は急峻な斜面が多く点在し、山合いに人家が集中していることから、住民は土砂災害への不安と隣合わせで生活していました。

このことから公民館で住民の意見集約を行い、南さつま市役所の多岐にわたる尽力のもと、県の急傾斜事業を行うこととなりました。

用地取得に際しては、地元の方々からは日頃から早期の完成を希望していたこともあり、快くご協力をいただくことができました。

平成21年の工事では、斜面の木々を残す工法を採用することで、環境保護を図り防風林を守ってもらったことは住民も喜んでいました。また、平成24年3月にすべての工事が完成し「不安がなくなり安心した」、「きれいになった」との声も多く聞きます。もし、この事業がなければ安全な場所を求めて住民が離れて、さらに過疎化が進むのではと思ったこともありますが、皆様のご協力で完成したことに感謝いたします。

今後も急傾斜事業は、住民生活に直結する事業であることから必要不可欠で、各関係者が一体となり事業を進めていただきたいと思います。

土石流から人を守る(湯穴地区の公民館長、久木田征男さん)



湯穴第1谷川砂防えん堤



久木田征男さん

枕崎市湯穴集落は傾斜地が多く、谷川が集落の中心を流れていて土砂災害に対する備えが重要であると考えていました。

そのため「安心・安全な村づくり」を目標に無線放送の設置、自主防災組織の設立など防災に対する取り組みを徐々に行ってきました。

砂防事業も集落に欠かせない事業です。地権者の皆様のご協力もあり平成22年10月に1基目のえん堤の完成、平成23年10月に下流の谷川の工事完成、平成25年3月に2基目のえん堤完成予定と進むにつれ「願いが叶った」との思いです。集落の行事等で付近の住民からは、工事で木の伐採をした結果、「明るくなった」、「きれいになった」との声をよく聞きます。

砂防事業で「安心・安全な村づくり」の一翼を担い、住民の防災意識がさらに向上したのは事実ですが、これで大丈夫とは思っておりません。

想定外の事態が発生すれば、最後は「住民をどうして逃がすか」となることから、連絡体制がさらに重要と考えており、ハード事業(工事)とソフト事業(連絡体制)を上手く組み合わせることが防災の近道だと思います。

集落の行事から県の事業まで全てに言えることですが、物事をスムーズに進めるために一番必要なことは、話し合いでのコミュニケーションで良好な人間関係を構築し、絆をつくることだと思います。